ISSN 1347-460X UDC 629.735.45 629.7.018.7 629.7.05

航空宇宙技術研究所資料

NAL TM-764

2

Z

Ē

支行

Ħ

12 斤 12 斗

TECHNICAL MEMORANDUM OF NATIONAL AEROSPACE LABORATORY

TM-764

実験用ヘリコプタ MuPAL-の開発

奥野善則・又吉直樹・照井祐之・若色薫穂積弘毅・井之口浜木・舩引浩平

2002年6月

独立行政法人 航空宇宙技術研究所

NATIONAL AEROSPACE LABORATORY OF JAPAN

欠

概	要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1
略	号		2
1.	はし	うめに	2
2.	母機	巻および実験用システムの概要	3
	2.1	母機の概要	3
	2.2	実験用システムの概要	6
	2.3	機体への搭載	9
	2.4	母機形態	12
	2.5	耐空性	12
	2.6	実験パイロットと安全パイロット	13
3.	計測	ミンサと計測項目	13
	3.1	DGPS/INS	13
	3.2	エアデータブーム	16
	3.3	超音波速度計	17
	3.4	操舵量/操舵力センサ	18
	3.5	ロータ回転角 / 回転速度センサ	19
	3.6	フラッピング / リードラグ角センサ	20
	3.7	ロータ6分力センサ	20
	3.8	燃料流量センサ	21
	3.9	振動センサ	21
	3.10	母機 VG,DG	22
	3.11	母機ピトー / 静圧孔	23
	3.12	母機ロータ回転計	23
	3.13	ドップラレーダ	24
	3.14	電波高度計	24
	3.15	ILS (GS , LOC) , VOR , DME	24
	3.16	エンジンデータ	24
	3.17	ICS 音声	25
	3.18	各種スイッチ	25
:	3.19	レーザトラッカ用反射鏡	25
4.	計測	割データの処理	25
	4.1	計測データ処理計算機	25
	4.2	シグナル・コンディショナ	28
	4.3	テレメータ	28
	4.4	計測データ処理ソフトウェア	30
	4.5	データ再生ソフトウェア	30
5.	画像	象表 示システム	30

6.外視界記録システム	
7.可変安定システム	
8.機体改修等	
8.1 重量重心	
8.2 電源	
8.3 ICS	
8.4 荷物室床面開口部	
9.計測データの較正	
9.1 エアデータブーム / 母機ピトー	
9.2 操舵量/操舵力	
9.3 ブレード角度	
9.4 ロータ 6分力	
9.5 燃料流量/消費量	
9.6 母機航法装置	
9.7 ジャンクション・ボックス	
10.飛行シミュレータ	
11.おわりに	41
謝辞	
付記	
文 献	

実験用ヘリコプタ MuPAL- の開発*

奥 野 善 則^{*1},又 吉 直 樹^{*1},照 井 祐 之^{*1},若 色 薫^{*1} 穂 積 弘 毅^{*1},井 之 口 浜 木^{*1},舩 引 浩 平^{*1}

Development of a Research Helicopter MuPAL- *

Yoshinori OKUNO^{*1}, Naoki MATAYOSHI^{*1}, Yushi TERUI^{*1}, Kaoru WAKAIRO^{*1} Koki HOZUMI^{*1}, Hamaki INOKUCHI^{*1}, Kohei FUNABIKI^{*1}

ABSTRACT

The National Aerospace Laboratory of Japan has developed a new research helicopter, MuPAL- , which is designed to flexibly meet the requirements of flight testing in the fields of helicopter guidance, navigation, and control, especially pilot-vehicle interfaces. MuPAL- is based on a Mitsubishi Heavy Industries MH2000A and is equipped with four systems for supporting research experiments: a data acquisition system that provides extensive flight data; a cockpit display system driven by a high-performance graphics computer that enables researchers to experiment with various types of display; a video recording system that captures external views to allow image processing technology to be applied to helicopter navigation; and a variable stability system that realizes different dynamic responses to pilot control inputs. Installed sensors include a hybrid DGPS/INS that provides highly accurate navigation data , and an ultrasonic velocimeter that can measure 3-axis airspeeds even in the hover. This paper describes the detailed design of these experiment systems.

Keywords: helicopter, flight test, data acquisition, cockpit display, variable stability

概要

航空宇宙技術研究所では,航空機の航法・誘導・制御技術やヒューマン・ファクタ等に関する研究,な らびに航空機搭載用機器の運用評価等を行うための実験環境として,多目的実証実験機MuPAL (Multi-Purpose Aviation Laboratory の略)プロジェクトを推進してきた。三菱式 MH2000A 型へリコプタを母機とする 実験機は MuPAL- (ミューバル・イプシロン)と名付けられ,実験用システムの設計開発や改修工事を終 えて2000 年3月に完成した。MuPAL- にはDGPS/INS (ディファレンシャル GPS と慣性航法装置の複合 システム)やホバリング状態でも正確に機能する超音波対気速度計などのさまざまなセンサが搭載されて おり,機体の飛行状態を高精度に計測することができる。また,研究者が表示内容を自由にプログラムで きる実験用ディスプレイがコクピットの計器板に装備されているほか,外視界を記録するためのビデオカ メラ等も搭載されている。フライ・バイ・ワイヤ化された固定翼実験機の MuPAL- とは異なり,MuPAL-の操縦系統は母機の機械式リンケージのままであるが,自動飛行制御装置(AFCS)のソフトウェアを変 更することにより,限られた範囲においてではあるが可変安定機能も実現されている。本資料は,これら の実験用システムの機能および仕様の詳細についてまとめたものである。

* 平成 13 年 12 月 28 日受付 (received 28 December 2001)

^{*1} 飛行システム研究センター (Flight Systems Research Center)

略号

ADC	Air Data Computer
ADF	Automatic Direction Finder (自動方位探知機)
ADI	Attitude Director Indicator (姿勢指示器)
AFCS	Automatic Flight Control System (自動飛行制
	御システム)
ATC	Air Traffic Control (航空交通管制)
BL	Buttock Line (機体の左右方向の基準座標)
C/A	Coarse/Acquisition (民間に開放された低精度
	のコード)
CCD	Charge Coupled Device
CDGPS	Carrier-phase DGPS (搬送波位相 DGPS)
DG	Directional Gyro (方位ジャイロ)
DGPS	Differential GPS
DLC	Direct Lift Control (直接揚力制御)
DME	Distance Measuring Equipment (距離測定装
	置)
DV	Digital Video
ELT	Emergency Locator Transmitter
EPNdB	Effective Perceived Noise Decibel (実効感受
	騒音デシベル)
FADEC	Full Authority Digital Engine Control
FBW	Fly By Wire
FDR	Flight Data Recorder
fpm	feet per minute
GPS	Global Positioning System
GS	Glide Slope
HSI	Horizontal Situation Indicator (方位指示器)
ICAO	International Civil Aviation Organization(国際
	民間航空機関)
ICS	Internal Communication System (機内通話シ
	ステム)
I/F	Interface
IFR	Instrument Flight Rules(計器飛行方式)
IGE	In Ground Effect (地面効果内)
ILS	Instrument Landing System(計器着陸システ
	ک)
INS	Inertial Navigation System (慣性航法システ
	ک)
ISA	International Standard Atmosphere (国際標準
	大気)
KGPS	Kinematic GPS
LOC	Localizer
MB	Marker Beacon
OGE	Out of Ground Effect (地面効果外)
PC	Personal Computer (PC/AT 互換機)

- PTT Press to Talk
- RTCM Radio Technical Commission for Maritime Services
 - SAS Stability Augmentation System(安定増大シス テム)
 - SCSI Small Computer System Interface
 - shp shaft horse power (軸馬力)
 - SL Sea Level (海面上)
 - SSD Solid State Disk (半導体ディスク)
 - STA Station (機体の前後方向の基準座標)
 - TAT Total Air Temperature (全温度)
 - TCG Time Code Generator
 - UHF Ultra High Frequency (極超短波)
 - UPS Uninterruptible Power Supply (無停電電源装置)
 - VG Vertical Gyro (垂直ジャイロ)
 - VHF Very High Frequency (超短波)
 - VOR
 VHF Omnidirectional Radio Range (超短波全 方位無線標識)
 - WL Water Line (機体の上下方向の基準座標)

1.はじめに

航空宇宙技術研究所では,航空機の航法・誘導・制御 技術,ならびにヒューマン・ファクタ等に関する研究成 果の実証,および航空機搭載用機器の運用評価等を実飛 行環境下で行うための実験環境として,多目的実証実験 機 MuPAL (Multi-Purpose Aviation Laboratory の略で ミューパルと読む)プロジェクトを推進してきた。双発 ターボプロップ機のドルニエ式 Do228-202 型機を母機と する実験用航空機は MuPAL- (ミューパル・アルファ, はギリシャ語で飛行機を意味する単語 ወ 頭文字に因んでいる)と呼ばれ, 1994~99年度(平成6 ~11年度)にかけての設計開発によりフライ・バイ・ワ イヤ(FBW)化され,また直接揚力制御(DLC)装置や キャビン内のセカンド・コクピット等を装備することに より,自由度の高い実験環境を提供するインフライト・ シミュレータ機能を実現している(文献1)。

ー方ヘリコプタを母機とする実験機は MuPAL-(ミューパル・イプシロン,はギリシャ語でヘリコプタ を意味する単語の頭文字)と名付けられ,1998年度(平成10年度)に導入が決定された。母機の調達と実験用システムの設計,製作,搭載工事等を含めて1年という短い期間で開発され,2000年(平成12年) 3月末に MuPAL-と同時に完成し,納入された。当研究所ではこれまで多くの固定翼実験機を開発,運用してきた実績があるが,回転翼航空機の導入は今回が初めてと



図 1.1 実験用ヘリコプタ MuPAL・と実験用航空機 MuPAL・

慣用単位	SI 単位	
fpm	5.08 × 10 ⁻³ m/s	
ft	0.3048 m	
kt	0.5144 m/s	
lb	0.4536 kg	
nm	1852 m	

表 1.1 単位換算表

なる。

図1.1にMuPAL- と の写真を示す。MuPAL- の母機 は三菱式 MH2000A 型機で,白い機体に描かれた青のス トライプはヘリコプタのプレードの動きをモチーフとし たデザインとなっている。また,登録記号は21世紀と MuPAL- という名称に因んでJA21ME と決められた。

MuPAL- に搭載される実験用システムの設計に際し, 特に下記の研究課題における飛行試験を想定し,必要な 機能を策定した。

- ・GPSを用いた計器飛行方式(IFR)に関する研究
- ・低騒音進入方式に関する研究
- ・飛行シミュレーション・モデルの模擬精度向上に関する研究

また同時に汎用性,拡張性にも配慮し,さまざまな分野 の飛行試験のニーズに幅広く対応可能とすることを設計 指標とした。本資料はこのMuPAL-に搭載される実験用 システムの機能および仕様の詳細についてまとめたもの である。

なお,本資料では一部に航空機で慣用されている単位 表記を用いている。表1.1 に SI 単位への換算値を示す。

2. 母機および実験用システムの概要

2.1 母機の概要

本節ではMuPAL- の母機である三菱式MH2000A型へ リコプタの概要を示す。同機は1996年7月に原型機が初 飛行した我が国初の純国産民間へリコプタである。エン ジンも初の国産へリコプタ用ターボシャフト・エンジン である同社のMG5-110を搭載しており,また自動飛行制 御装置(AFCS)やGPSを用いたマップ表示装置等も自 社開発されている。このような多くのコンポーネントが 同一のメーカで開発された航空機として,固定翼機を含 めても世界的にも例の無い機体となっている。

図2.1.1 に機体の三面図を示す。また母機の主要諸元を 表2.1.1 に,エンジンの出力諸元を表2.1.2 に示す。ロー タの回転速度は NORMAL (100%NR)とLOW (90%NR) の切り換えが可能で,100%NR でも水平飛行時の騒音値 は国際民間航空機関 (ICAO)の定める基準値より5 EPNdB 近く低いが,90%NR モードではさらに2 EPNdB 低減される。

図2.1.2に機体のレイアウトを示す。燃料タンクはキャ ビン後方,メインロータハブの真下にあり,さらにその 後方に荷物室,および母機装備品用の電子機器室が配置 されている。荷物室は容量2.2m³と広いスペースが確保 されているが,飛行中にアクセスすることはできないた め,実験用機器を搭載する場合には飛行中に操作を行う 必要のないものに限られる。MuPAL-では,荷物室の床 面に開口部を設けて下方視界撮影用のビデオカメラを設 置しているほか,実験用電源のインバータも荷物室に搭 載されている。

図2.1.3にメインロータハブの構造を示す。ブレードの フラッピング/リードラグヒンジはエラストメリック・





図 2.1.1 機体の三面図

表 2.1.1	母機の主要諸元

型式		三菱式 MH2000A 型		
発動機の型式	及び数	三菱式 MG5-110型 2基		
耐空類別		回転翼航空機 輸送 TA 級及び TB 級		
運用限界	対気速度	パワーオン時の超過禁止速度 140kt		
		(重量,気圧高度及び温度により変化する)		
		横進速度限界 30kt		
		離着陸時の横風限界 20kt		
	高度	最大運用高度 15,000ft		
		離着陸最大高度 10,000ft		
	温度	高温側 + 36 又はISA + 21 の低い方(100%NR)		
		低温側 - 18		
	重量・重心	最大全備重量 4,500kg		
		重心範囲 ロータ中心より ± 6in (前後), ± 3.5in (左右)		
	荷重	制限荷重倍数 - 0.5 ~ + 2.3G		
	搭乗者	最小乗組員数1名,最大搭乗者数10名		
性能	最大巡航速度	135kt (SL/ISA)		
(最大重量)	経済巡航速度	123kt		
	ホバリング限界	8,200ft (IGE), 5,400ft (OGE)		
	航続距離	720km (3,000ft/ISA)(燃料容量 1,200ℓ,960kg)		
寸法	メインロータ	直径 12.20m, 翼弦長 0.40m, ブレード枚数 4		
テールロータ		直径 1.10m, 翼弦長 0.087m, ブレード枚数 10		
胴体		全長 12.20m , 全幅 3.12m , 全高 3.63m		
回転数	メインロータ	317rpm		
(100%)	テールロータ	3,500rpm		
	エンジン出力軸	5,700rpm		

表2.1.2 エンジン及びトランスミッションの定格

(単位	:	shp)
-----	---	-----	---

出力定格		エンジン (SL/ISA)	トランスミッション
	離陸(5分)	876	1,500
双発	連続	772	1,250
	連続(90%NR)	694	1,125
上惑	2.5 分	922	840
776	30 分	876	750



図 2.1.2 MH2000 の機体レイアウト (図面提供:三菱重工業(株))



図 2.1.3 メインロータシステム

ベアリングで,ヒンジ・オフセットは4%となっている。 ロータの頭頂部には振動軽減のためのバイファイラが装 備されている。

図2.1.4にコクピットの計器板とセンターコンソールの 写真を,図2.1.5に各計器やコントロールパネル(制御器) のレイアウトを示す。この機体にはもともとGPSを用い



図 2.1.4 計器板とセンターコンソール

たマップ表示装置が搭載されている(図2.1.5の10の位置)が,MuPAL-ではこれを取り外してこの場所に実験 用ディスプレイを設置している。マップ表示装置を取り 外した状態でもGPS受信機本体(Trimble 2000 Approach,図2.1.5の11の位置)の使用は可能である。



図 2.1.5 計器およびコントロールパネル等の配置

2.2 実験用システムの概要

図2.2.1に実験用システム全体のブロック図を示す。実 験用システムは主に以下の4つのシステムから構成され る。

(1) 計測システム

機体の飛行状態を高精度に計測するためのシステムで, 以下のデータを記録することができる。

- ・慣性データ(DGPS/INS による機体の位置や姿勢角 等)
- ・エアデータ(エアデータブームによる対気速度や気
 圧高度等)
- ・低速用エアデータ(超音波速度計による対気速度)
- ・パイロットの操舵量 / 操舵力
- ・メイン / テイルロータサーボ ,AFCS アクチュエータの各変位量
- ・ロータ回転角/回転速度
- ・メインロータブレードのフラッピング / リードラグ

角

- ・メインロータの6分力
- ・燃料流量 / 消費量
- ・振動加速度(機内5点)

また,以下の母機装備品の出力信号を記録することが できる。

- ・母機 VG (ピッチ, ロール姿勢角), DG (方位角)
- ・母機ピトー/静圧孔(対気速度,気圧高度,昇降率)
- ・母機ロータ回転計
- ・ドップラレーダ(対地速度)
- 電波高度計(対地高度)
- ILS (GS, LOC), VOR, DME
- ・エンジン (FADEC)
- ・ICS 音声
- ・各種スイッチ

表2.2.1 に各計測項目の計測レンジ,センサ単体での仕 様精度,サンプリングレート,およびインターフェイス



図 2.2.1 実験用システム全体のプロック図

の一覧を示す。サンプリングレートは2~5000Hzまでの 幅があるが,多くのデータは50Hzで取り込まれており, またロータ系のセンサ(メインロータプレードのフラッ ピング/リードラグ角やメインロータの6分力)につい ては500Hzでサンプリングされている。各センサの詳細 を第3章に,各計測項目の較正方法を第9章に示す。

計測データ処理計算機は ARINC429/629, RS-232/422 等のインターフェイスを有し, アナログデータはシグナ ル・コンディショナ内でPCM 化されて取り込まれる。全 てのデータは機上で半導体ディスク(SSD)に記録され るほか, テレメータによって地上に送信することもでき る。SSD は機体から取り外して地上の汎用 PC に SCSI イ ンターフェイスのハードディスクとして接続することが 可能で, 大量のデータを高速に処理することができる。 この計測データ処理計算機は、民生用のPCをベースとし ているため、保守性・拡張性に優れ、また短期間かつ低 コストで開発が可能という特長を有している。各イン ターフェイスには予備チャンネルが確保されており、実 験用機器の追加や航空機搭載用機器の運用評価等の目的 に容易に利用可能なよう配慮されている。表2.2.2に予備 チャンネルの一覧を示す。計測データ処理計算機の構成 や計測データ処理の詳細について第4章にまとめる。

(2) 画像表示システム

研究者が表示内容を自由にプログラムできる実験用 ディスプレイをコクピットの計器板に装備している(図 2.1.4, 2.1.5参照)。当研究所で開発された表示プログラム の例を図2.2.2に示す。(1)は「トンネル・イン・ザ・ス カイ」(文献2)と呼ばれるもので,空間上にトンネルの

表2.2.1 計測項目

	大項目	小項目	計測レンジ	仕様精度	レート (Hz)	I/F
慣	性データ	位置(3軸)	緯度±90deg	1m (DGPS/INS)		
(D	GPS/INS)		経度 ±180deg	100m (GPS/INS)	50	
Ľ				1nm/hr (純INS)	1	
				3m (純DGPS)		
				100m (純 GPS)	2	
		速度(3軸)	±250kt	0.1m/sec (DGPS/INS)		1
				0.3m/sec (GPS/INS)	50	DC 400
				1.0m/sec (純 INS)	1	K0-422
				0.2m/sec (純DGPS)		1
				1.0m/sec (純 GPS)	2	
		加速度(3軸)	±5G	0.01G		
		ピッチ ,ロール姿勢角	±90deg	0.05deg		
		真方位角	0~360deg	0.1deg	50	
		角速度(3軸)	±100deg/sec	0.1deg/sec		
T	アデータ	対気速度	50 ~ 250kt	±1kt		
(A	DC)	与广告曲	- 1,000 ~ 10,000ft	± 15ft		
		乳圧同反	10,000 ~ 25,000ft	±(15+(高度 - 10,000)×0.05%)ft	50	ARINC629
		昇降率	± 6,000fpm	±30fpm または ±5%		
		外気温度	±50°C	±1°C		
		迎角・横滑り角	±45deg	± 0.5%	50	ANALOG
低	速用エアデータ 習音波速度計)	対気速度(3軸)	0~60kt	±2kt	20	RS-232C
ĥ		サイクトック縦構	0~100%	+1%		
		コレクティブ	0~100%	+ 1%		
		ペダル	0~100%	+ 1%		
+=	サーボ変位	メインロータサーボ(3ch)	0~100%	+ 1%	50	ANALOG
保縦		テールロータサーボ	0~100%	+ 1%		
系	アクチュエータ変位	AFCST7751T-S(3ch)	0~100%	+ 1%		
	操舵力	サイクリック縦横	±20lb程度	±0.2lb		
		コレクティブ	±20lb程度	±0.2lb	50	STRAIN
		ペダル	±40lb 程度	±0.5lb		
	ロータ回転角 / 速度	ロータ回転角	0~360deg	±1deg		****
		ロータ回転速度	10~140% 程度	±0.2%	50	専用リート
4	ブレードフラッピング	フラッピング角	±20deg 程度	±0.2deg	500	
2	リードラグ角	リードラグ角	±10deg 程度	±0.2deg	500	STRAIN
厼	メインロータ6分力	トルク	0~150% 程度	±1%	500	CTDAIN
		その他の5分力		±10%	500	STRAIN
燃	料流量/消費量	燃料流量(左右エンジン)	0~1,000lb/hr 程度	±10lb/hr	50	ANALOG
		燃料消費量	0~2,000lb 程度	±20lb	2	PULSE
振	動データ(機内5点)	振動加速度(3軸)	±10G(0~100Hz)	±1%	500	ANALOG
	VG	ピッチ,ロール姿勢角		±0.5deg	50	LVDT
	DG	磁方位角		±2deg	50	SYNCHRO
		刃気速度	30~180kt	±(2.5 +速度 ×0.4%)kt		
Б	(局度速度変換器)	気圧局度	- 1,000 ~ 20,000ft	±(50 + 	50	ANALOG
機		昇降學	±6,000fpm	±2%		
せ		***	50, 0001 /	汀胖龍 2%	50	ANALOG
サ	>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>	制度力円	- 50 ~ 300kt	. 0.0%		
	(「ツノフレータ)		± 100Kt	± 0.3%	10	ARINC429
	刘 州宣母		$\pm 0,000$ pm	1.20/		
	入1地同反 (書油三府計)		500 ~ 2500ft	エン ⁷⁰ エ 5%	50	ANALOG
\vdash		GS	2001 20011	± 0.0 + 10µA(0 13dot)		
<u>جور</u>				$+7\mu A(0.093dot)$	50	ANALOG
肌法	VOR			±0.5deg	50	ARINC429
系	DME		0~100nm	±0.1nm		
			100~389nm	±1nm	10	ARINC429
I	ンジンデータ(左右)	トルク	0~180%	±1%		
		パワタービン回転数	0~130%	± 1%	40	DC 400
		ガスジェネレータ回転数	0~150%	±1%		RS-422
		パワタービン入口温度	0~1,000°C	±10°C		
IC	S 音声				5000	ANALOG
各	種スイッチ				50	DISCRETE

表2.2.2 計測システムの予備チャンネル

インターフェイス	チャンネル数
RS-232/422	4
ARINC429	5
ARINC629	1
歪みゲージ型アナログ	9
電圧アナログ	30
シンクロ	1
ディスクリート	14

イメージを表示することによって曲線区間を含む進入経 路に沿って精密な誘導を行うためのものである。(2)は 地形の3次元表示(文献3)で,画像表示計算機として高 性能なグラフィック・ワークステーションを搭載してい るため,このような計算機負荷の高い画像もリアルタイ ムで処理することが可能となっている。(3)は計測シス テムの機能確認を行うためのもので,様々なセンサの計 測データが一つの画面内に表示されている。例えば画面 左上の計器では,エアデータブーム,母機ピトー/静圧 孔,DGPS/INS,ドップラレーダで計測された機体速度 を比較することができる。画像表示システムの詳細につ いて第5章に述べる。

飛行試験に先立って実験用ディスプレイの表示プログ ラムの開発および評価を行うための環境として,当研究 所の保有するヘリコプタ用飛行シミュレータにも実機と 同等の画像表示システムが組み込まれた。飛行シミュ レータの概要について第10章に示す。

(3) 外視界記録システム

前方および下方視界を撮影するためのビデオカメラが それぞれコクピットおよび荷物室床面に設置されている。 これらのカメラで撮影された映像は,画像表示計算機で 生成された画像と合成し,計器板の実験用ディスプレイ に表示することが可能である。画像認識技術を応用した 新しい航法システムに関する研究(文献4)等での利用が 想定されている。本システムの詳細について第6章に述 べる。

(4) 可変安定システム

飛行中に機体の安定性を変化させる機能を有している。 MuPAL- の操縦系統は母機の機械式リンケージのままで ある(フライ・バイ・ワイヤ化されていない)が,自動 飛行制御装置(AFCS)のソフトウェアを変更することに より,限られた範囲においてではあるが可変安定機能が 実現されている。本システムの詳細について第7章に述 べる。



(1) トンネル・イン・ザ・スカイ



(2)3次元地形表示



(3) 計測システム機能確認用表示 図 2.2.2 実験用ディスプレイの表示の例

2.3 機体への搭載

図2.3.1 に主な計測用センサおよび実験用機器の配置 を,図2.3.2に母機装備および実験用システムの各アンテ ナ類の配置を示す。

図2.3.3にキャビン内の計測システムおよび画像表示シ







図 2.3.2 アンテナ類の配置



図 2.3.3 キャビン前方の操作員席



図 2.3.4 キャビン後方のラック



図 2.3.5 ラック内の機器の配置

ステムの操作卓の配置を示す。母機の MH2000A 型機は キャピン内に横4席×前後2列の計8席が標準的な座席配 置であるが, MuPAL- では前席の外側2座席の前にそれ ぞれ操作卓を配置し,内側2座席は取り外して中央に前 後に回転可能な座席を配置している。また後列の座席は 全て取り外し,実験用機器を搭載するラックを設置して いる。前列中央の操作員が座席を後ろ向きに回転させる ことにより,ラック内の機器の操作を行うことができる。

図2.3.4 にラックの写真を,図2.3.5 にラック内の機器の配置を示す。向かって左側の計測データ処理計算機,

中央上段のビデオレコーダ,右側上段の超音波速度計 データ処理器等は,民生品を用いている(航空機搭載用 ではない)ため,ショック・マウントを介してラックに 取り付けられている。右側下段の画像表示計算機は耐環 境性向上型のためラックに直付けされている。ラック内 の機器と機体に搭載されるセンサ等の間の配線は,ラッ クの着脱が容易なように,キャビンの壁面に設けられた コネクタ・パネルを介して結線されている(図2.3.6)。ま たラックの強度は天板に50 kgの追加機器を搭載可能な ように設計されている。



図 2.3.6 コネクタ・パネル

座席,操作卓,ラック等の配置の設計に際しては,実 物大のモックアップを製作して操作性等の確認を行った。 図2.3.7 にモックアップの写真を示す。ラックは,当初は 図に示すようにキャビン天井部まで高さのある構造と なっていたが,その後重量軽減のため図2.3.4のように設 計が変更された。

その他,実験用システムの搭載に関する機体の改修内 容について第8章にまとめる。



図 2.3.7 キャビン内のモックアップ

2.4 母機形態

各実験用機器は,容易に取り付け,取り外しが可能な ように搭載されており,キャビン内に母機のMH2000A型 機と同じ横4席×前後2列の計8名が搭乗できる母機形態 に変更可能なように設計されている。表2.4.1に実験形態 から母機形態に変更する場合の機器の取り付け,取り外 しの概要についてまとめる。

2.5 耐空性

MuPAL- は,エアデータブームを搭載した実験形態, 超音波速度計を搭載した実験形態,および母機形態の3 つの運用形態において耐空性を有している。耐空類別は

搭載場所	母機形態で取り外される 主な実験用機器	取り付けられたままとなる 主な実験用機器	母機形態で取り付けられる 主な母機装備品
キャピン	計測システム操作卓 画像表示システム操作卓 機器操作員用テーブル 回転式座席 ラック	電源パネル 電源取り出しロ	標準座席8席(追加分6席)
コクピット	実験用ディスプレイ 可変安定システム制御器 前方視界カメラ	ドップラレーダ制御器 実験用電源制御器	マップ表示用ディスプレイ
荷物室	インパータ 下方視界カメラ		
その他	ノーズプーム レーザトラッカ用反射鏡	各種アンテナ 操縦系やロータ系のセンサ 高度速度変換器 燃料流量センサ 振動センサ スリップリング	

表 2.4.1 実験形態から母機形態への変更内容

表 2.6.1 操縦席毎の計測可能項目

			左席	右席
			(コパイロット)	(メインパイロット)
実験用ディスプレイ		ィスプレイ		-
実験用スイッチ		イッチ		-
操	舵量			
操	舵力	ペダル以外	×	
		ペダル		
	VG,	DG		×
	ピトー / 静圧孔			×
	ロータ回転計			
母	ドップラレーダ			
機装	電波高	高度計	-	
備	ILS , VOR			×
品	DME		-	
	エンシ	ダン		
	ICS 끝	声		
	各種ス	スイッチ		

:計測(または使用)が可能なもの

- : 搭載されていないもの

×:搭載されているが,計測できないもの

×類(特殊航空機)であるが,実験用機器の搭載につい ては母機と同等の耐空性審査基準(荷重条件下方20G,前 方16G)が適用されており,また実験形態,母機形態と も母機のMH2000A型機と同等の運用限界が確保されて いる。

2.6 実験パイロットと安全パイロット

MuPAL- は左右両方の操縦席にほぼ同等の計器,操縦 装置を備えているが,飛行試験を行う場合には,左側(コ パイロット)を実験パイロット,右側(メインパイロッ ト,機長)を安全パイロットと位置付けている。特に実 験用ディスプレイの使用は飛行規程によって左側操縦席 に限定されており, サイクリックおよびコレクティブ・ スティックの実験用スイッチ(第5章参照)も左席のみ に設置されている。また,計測データのうち,母機装備 のセンサで左右の操縦席用に個別に装備されているもの (母機ピトーやILS等の航法装置等)についても,左席用 のもののみ計測を行っている。表2.6.1に操縦席毎の計測 可能項目をまとめる。電波高度計等一部の計器について は右席のみに装備されているものもあり、これらを用い た実験を行う場合には,右席で操縦を行うか,あるいは 右席用計器からのデータを用いて実験用ディスプレイに 同等の計器を表示することによって左席から参照するこ とも可能となる。

3.計測センサと計測項目

表3.1にMuPAL- に搭載されている計測センサの型式 を示す。また 表3.2に主要なセンサの搭載位置を示す(機 体軸の定義については図8.1.1を参照)。これらの計測セ ンサのうち,エアデータブームと超音波速度計のみ取り 替え式となっており,他の計測データは全て同時に取得 することが可能である。本章ではこれらの計測センサと 計測項目の詳細について述べる。

3.1 DGPS/INS

機体の3軸の加速度,速度(慣性速度),位置,角速度, 姿勢角をディファレンシャルGPS(DGPS)と慣性航法 装置(INS)の複合センサにより計測する。図3.1.1 に DGPS/INS本体の写真を示す。複合化のアルゴリズムは, GPS受信機が出力する位置と速度を観測量としたカルマ ン・フィルタによってINSのドリフト誤差を補正する ルーズ・カップリング方式となっている。また,本装置 は下記のモードにおける航法解(位置,速度)を常に同 時に出力しており,試験目的に応じたデータを利用する ことができる。

- ・DGPS (またはGPS)とINS の複合モード
- ・純 INS モード
- ・純 DGPS (またはGPS) モード

表 3.1 計測センサの型式

	計測項目	センサ種類 / 型式	
慣	性データ	DGPS/INS 複合センサ	
		多摩川精機製 TA7426N1	
		(DGPSはAshtech製Z-Eurocard)	
I;	アデータ	エアデータブーム	
		Space Age Control 製 100700-02	
		ADC	
		東京航空計器製 ADC-26	
		TAT センサ	
	· - • •	Rosemount 2 102V2U	
低	速用エアデータ	超音波風速計	
		カイジョー製	
	操舵量	レーザ式変位センサ	
操	サーボ変位	キーエンス製 LB-01/LB-60	
縱	アクチュエータ変位		
が	操舵力	歪みゲージ	
		共和電業製 KFG-2-350-D16	
	ロータ回転角 / 速度	光電スイッチ	
ロ- タ系 -		キーエンス製 FU-6F/FS2-60 (M/R)	
		FU-85/FS2-60 (T/R)	
	ブレードフラッピング	歪みゲージ	
	リードラグ角	共和電業製 KFRP-5-350-C1	
	メインロータ6分力	歪みゲージ	
		共和電業製 KSN-6-350-E4	
Line .	スリップリング	東測製 SR36M	
燃	料流量 / 消費量	流量センサ/シグナル・コンディショナ	
	e1 k	Senior Flexonics 881-306 / PC920	
振	助テータ	金みケージ式振動センサ	
		Crossbow & CXL10LP3	
	VG	KING 製 KVG350	
	DG	Beindix/King 製 KCS305	
	ピトー / 静圧孔	エアデータ・トランスデューサ	
臣		(高度速度変換器)	
機力		Rosemount 製 542CB	
ン	ロータ回転速度	□ 母機装備品 	
サ	対地速度	ドップラレーダ	
	4 11d	Racal Avionics R Doppler 91	
	対地高度	電波高度計	
		Beindix/King 製 KRA405B	
航	ILS (GS, LOC)	Beindix/King 製 KNR634A	
法	VOR		
厼	DME	Beindix/King 製 KDM706A	
I.	ンジンデータ	FADEC(母機装備品)/信号変換器	
		三菱重工製	
レ	ーザトラッカ反射鏡	Contraves 製	
		Retroreflector Array 903301	

ىد. دىـ	位率の甘港上	搭載位置		
279	山戸の奉牛品	STA	BL	WL
DGPS/INS	INS 基準点	4004	- 182	1294
	GPS アンテナ	2380	- 512	2630
エアデータブーム	センサ先端	- 1591	0	990
超音波速度計	センサ先端	- 2153	0	990
ドップラレーダ	アンテナ	7840	0	1020
電波高度計	送受信アンテナの中心	6915	0	975
	GS アンテナ	1285	0	1278
ILS	LOC アンテナ (左舷)	0440	759	1960
	" (右舷)	0412	- 759	1000
振動センサ	計器板	1600	300	1640
	左操縦席下床面	2107	480	1130
	ラック	4360	0	1730
	重心	4990	0	2050
	荷物室	6010	645	1130
レーザトラッカ	反射鏡	2370	0	780

表 3.2 各センサの搭載位置



図 3.1.1 DGPS/INS 本体

各モードにおける計測精度は表2.2.1 にまとめられてい る。複合モードによる位置データは,図2.2.2(1)に示し たような表示プログラムを用いた精密進入の飛行試験を 行うために充分な精度を有している。ただし,本装置は あくまで計測用センサであり,航法装置として認可され たものではない。

DGPS の補正用データとして,当研究所の保有する地 上局(RTCM SC-104 Type 1準拠)を設置してテレメータ によって補正用データを送信する方法と,海上保安庁が 国内の沿岸全域に整備している地上局からの中波信号 (同 Type 3, 5, 6, 7, 9)を利用する方法を選択することが



図 3.1.2 海上保安庁の DGPS 地上局

できる。後者の場合,新たに地上局を設置する必要がな いため,特に広い空域で飛行試験を行う場合等に有効で ある。図3.1.2に海上保安庁のDGPS地上局の配置を示す。 27の地上局により国内の沿岸全域がカバーされている。 ただし,この地上局は主に船舶用として整備されたもの であるため,内陸部では受信が困難となる可能性が考え られる。

DGPS/INS装置に内蔵されるGPS受信機は、C/Aコー ドによるシュードレンジを用いた航法解以外に、搬送波 位相等のデータも出力することができる。地上局で記録 されたデータと併せてオフラインでキネマティックGPS (KGPS)の処理を行うことにより、さらに高精度な位置 データを得ることが可能となる。また、当研究所では、リ アルタイムでより精度の高い位置データを得るために、 搬送波位相DGPS(CDGPS)とINSの複合システムの研 究が行われている(文献5)。MuPAL- に搭載されている INSは、このCDGPS/INSのアルゴリズムを適用するた めに必要な、角度増分、速度増分等のデータ(INS内部 のジャイロや加速度計の生データに相当する)を出力で きる仕様となっている。

図3.1.3 に GPS と海上保安庁の地上局用のアンテナを 示す。当研究所の地上局を利用する場合には図4.3.2 に示 すテレメータ受信用アンテナを利用する。GPS アンテナ から見て左後方にメインロータのロータヘッドおよびエ ンジン等が位置しているため,GPS 衛星の仰角が低い場 合には死角となって電波,特に搬送波位相情報に関して 受信障害が生じる可能性がある。この点については文献 6に報告されている。なお,シュードレンジを用いた通常 の航法解の取得には問題はない。

3.2 エアデータブーム

エアデータセンサ搭載用として機体のノーズコーン下 に長さ1.75 mのノーズブームを装着している(図3.2.1)。 またノーズブームにはTAT(全温度)センサが装着され ている。ノーズブームの取り付け部の写真を図3.2.2に示



図3.1.3 GPS 用アンテナと中波ビーコン用アンテナの配置

す。ノーズブームは1点の取り付け部と3本のステーに よって支持されている。

ノーズブーム先端にエアデータブームを装着し,エア データコンピュータ(ADC)で処理することにより,機 体の対気速度,気圧高度,昇降率を計測することができ る。図3.2.3にエアデータブーム単体の写真を,図3.2.4に ADC単体の写真を示す。エアデータブームには, ベーンも装着されており,迎角および横滑り角を計測す ることができる。





図3.2.1 ノーズブームにエアデータブームまたは超音波 速度計を装着した状態



図 3.2.2 ノーズブームの取り付け構造



図 3.2.3 エアデータブーム



図 3.2.4 エアデータコンピュータ (ADC)

なお,表2.2.1 に示した仕様精度はADC単体のもので ある。エアデータブームの位置誤差(機体の周りの流れ 場の影響による誤差)を飛行試験で求めた結果が文献7 にまとめられている。

3.3 超音波速度計

エアデータブームはピトー管によって対気速度を計測 するため、低速では精度が保証されない(ADCの精度保 証は50kt以上)。エアデータブームに代わり、ホバリン グを含む低速飛行状態での対気速度を精度良く計測する ためのセンサとして、超音波速度計をノーズブーム先端 に装着することができる。図3.3.1に超音波速度計のセン サ部の写真を示す。3本のプローブのそれぞれに超音波 の送受信器が2個ずつ付いており、隣接するプローブ間 の超音波の伝搬速度を計測することによって3軸の対気 速度を計算する。プローブからの信号は接続ボックス (図3.2.2参照)を経由してラックに搭載された専用の データ処理器(図2.3.4参照)に取り込まれる。

超音波速度計を装着する場合は,エアデータブームは 取り外し,ADCは使用しない。ただし,この状態でも母



図 3.3.1 超音波速度計



図 3.3.2 超音波速度計を装着して飛行中の MuPAL-

機ピトーを用いたエアデータの計測(3.11)は可能である。

低速域においてヘリコプタの対気速度を計測する場合, メインロータの吹き降ろしの影響が問題となる。このた め,エアデータブーム装着時に比べてノーズブームをさ らに延長し,センサ部がロータ先端から約1m前方に位 置するように超音波速度計を装着している(図3.2.1)。図 3.3.2 に超音波速度計を装着した状態の写真を示す。

ノーズブームの延長によりセンサ部の振動レベルが増 大する可能性があったため、ノーズブーム先端付近に振 動センサを装着(図3.3.1)して飛行試験を実施した。こ の結果,最大振動レベルは15 Hz 付近で約0.9 G であり, 超音波速度計の耐環境基準(同1G)以下であることが確 認された。なお、この振動センサはこの確認試験の後に 取り外された。

超音波速度計は,元来は気象観測用の風速計として開 発されたものであり,特に低速での精度に優れている。 航空機の対気速度センサとしては,高速域でのノイズが 問題となっていたが,当研究所の実験用航空機を用いた 研究(文献8)により,ヘリコプタであれば飛行速度の全 域で(ホバリングから百数十ktまで)精度を確保するこ とも可能となっている。このため,特にヘリコプタに適 した対気速度センサとして実用化を目指した研究を行う ことも計画されている。また,当研究所では,航空機を 用いた風観測,特に地形性乱気流の観測が行われている (文献9)。飛行機を用いた風観測では,移動しながら風速 を計測するため,風速の時間的変化と空間的変化を分離 することが困難であるが,超音波速度計を用いてヘリコ プタでホバリングしながら風を観測することにより,定 点における風速の時間的変化を直接計測することが可能 となる。このような「空飛ぶ風速計」としての利用も予 定されている。

3.4 操舵量/操舵力センサ

図3.4.1に操縦系統の図を示す。パイロットの操舵はサ イクリック・スティック,コレクティブ・スティック,お よびペダルの各操縦装置から入力され,サイクリック縦 (ビッチ),横(ロール),およびペダル(ヨー)について はAFCS アクチュエータの出力がそれぞれ加えられる。 さらにサイクリック縦横とコレクティブの動きはミキ サーに入力され,メインロータのスウォッシュプレート を制御する3つのサーボを駆動する。ペダルについては 直接テールロータのサーボに入力される。MuPAL- で は,これらの操縦系統のうち,(1)操縦装置の直後,(2) AFCSアクチュエータの直後(ミキサーの前),および(3) サーボの直前(ミキサーの後),の3つの段階でリンケー ジ・ロッドの変位量を計測している。

パイロットの操舵量の計測データは,図3.4.2に示す各 操縦装置のフルストロークに対するパーセンテージで出 力される。また,操縦装置の直後とAFCSアクチュエー タの直後のリンケージ・ロッドの変位量の差から,AFCS アクチュエータのストローク量を求めることができる。 さらに,各サーボの変位量から,メインロータプレード のコレクティブピッチと縦横のサイクリックピッチ,お よびテールロータのコレクティブピッチを計算すること ができる。メインロータブレードのピッチ角の較正法に ついて9.3に示されている。

リンケージ・ロッドの変位量を計測するセンサとして





(1)サイクリック縦



(2)サイクリック横





図 3.4.2 各操縦装置のフルストローク



図 3.4.3 レーザ式変位センサ

は,非接触のレーザ式センサを採用している。図3.4.3 に レーザ式変位センサの写真を示す。また,図3.4.4 にヨー のAFCS アクチュエータ変位量センサの取り付け状態を 示す。

パイロットの操舵力は,サイクリック縦横とコレク ティブについては右側操縦席の各スティックの根本部分 に歪みゲージを貼付し(図3.4.5),ペダルについてはリン ケージ・ロッド部に歪みゲージを貼付してそれぞれ計測 している(図3.4.1参照)。MH2000A型機のサイクリック・ スティックにはトリム・リリース機構が装備されており, パイロットがグリップのスイッチを操作することによっ



図 3.4.4 テールコーン内部



図 3.4.5 操舵力センサ (サイクリック・スティック)

て電磁ブレーキが解除され,その位置で反力がニュート ラルとなる。このトリム・リリース・スイッチの操作も 計測データとして取り込まれている(3.18参照)。

なお,操舵量については左右どちらの操縦席で操縦し ている場合にも計測可能であるが,操舵力(ペダルを除 く)の計測は右側操縦席で操縦を行う場合に限られる。

3.5 ロータ回転角/回転速度センサ

ロータの回転速度は、テールロータのドライブシャフ ト部に取り付けられた回転速度検出用の光電スイッチ (図3.5.1(1))からのパルス信号により計測する。メイン ロータには基準位置検出用の光電スイッチ(図3.5.1(2)) が取り付けられており、これらの信号をシグナル・コン ディショナの専用インターフェイス・カードで処理する ことによってメインロータの回転角(基準プレードの回 転方位角)を求めることができる。ロータ回転角の計測 データは、ロータ上のセンサ、即ち以下に述べるフラッ



(1) テールロータのドライブシャフト部分



(2) メインロータのスウォッシュプレート部分 図 3.5.1 ロータ回転角/回転速度センサ

ピング/リードラグ角や6分力センサのデータを機体固 定座標系に変換するために充分な精度が確保されている。

3.6 フラッピング/リードラグ角センサ

メインロータブレードのフラッピング角およびリード ラグ角は,ヒンジ内にプレートを装着し,そのプレート の変形量を歪みゲージで計測することによって求めてい る。図3.6.1 にフラッピング角センサの取り付け位置を, 図3.6.2 に歪みゲージを貼付したプレート(センサ本体) の写真を示す。リードラグ角を計測する場合は同様のプ レートを垂直に立てた状態で取り付ける。なお,4枚のメ インロータブレードのうち,2枚(No.1,3)はフラッピ ング角を,残りの2枚(No.2,4)はリードラグ角を計測 している。

3.7 ロータ6分力センサ

メインロータの6分力(スラスト,トルク,X,Y軸方 向の力とモーメント)をロータシャフトに歪みゲージを 貼付して計測する。図3.7.1 に各歪みゲージの位置を示 す。この部分はアクセスが困難なため,歪みゲージの故 障に備えてあらかじめ予備が用意されている。

これらの歪みゲージからの信号と 3.6 に示したフラッ ピング / リードラグ角計測用歪みゲージからの信号は,



図 3.6.1 フラッピング角センサの取り付け位置



図 3.6.2 フラッピング角センサ

スリップリング(図3.7.1, 3.7.2)を介して取り込まれている。

スラストおよびトルクについては各歪みゲージにより 直接計測可能であるが,X,Y軸の力とモーメントについ てはシャフト上の2カ所で計測したモーメントから以下 の式により計算する。

$$F_{x} = \begin{array}{c} M_{y_{2}} - M_{y_{1}} \\ L_{2} - L_{1} \end{array}$$
$$M_{y} = \begin{array}{c} L_{2} \times M_{y_{1}} - L_{1} \times M_{y_{2}} \\ L_{2} - L_{1} \end{array}$$

ここでF_x,M_yはロータハブの中心点を原点とするシャ フト固定座標系における×方向の力とY軸周りのモーメ ントで,M_y,およびM_y,は上下の歪みゲージで計測された





図 3.7.2 スリップリング

カは、3.5に示したロータ回転角を用いて座標変換することにより、機体固定座標系における6分力に変換することができる。

3.8 燃料流量センサ

燃料タンクから左右それぞれのエンジンへの配管に流 量センサ(図3.8.1)を装着して燃料流量を計測する。セ ンサはタービン式の体積流量センサで,また温度センサ を内蔵しており,専用のシグナル・コンディショナに よって重量流量に変換される。さらに,計測データ処理 計算機に搭載されたパルス・カウンタ・カードによって 積算され,総燃料消費量が求められる。離陸前の全機重 量を地上で計測しておくことにより,時々刻々の機体の 重量を精度良く求めることができる。全機重量の計測方 法について9.5に示す。

3.9 振動センサ

機内の5点(計器板,操縦席床面,ラック,重心位置 付近(燃料タンク上),荷物室)に3軸の振動センサ(図



図 3.8.1 燃料流量センサ

VIEW A-A



図 3.7.1 ロータ 6 分力センサの取り付け位置

Y軸周りのモーメント、L₁およびL₂はロータハブ中心から上下の歪みゲージまでのモーメント・アームである(図3.7.1)、Y方向の力とX軸周りのモーメントについても同様に求めることができる。

これらのシャフト固定の回転座標系で計測された6分



図 3.9.1 振動センサ(左操縦席下床面)

3.9.1)を搭載している。これにより,実験用機器を搭載 する際の振動環境を知ることができる。

3.10 母機 VG, DG

母機装備の姿勢指示器(ADI)用の垂直ジャイロ(VG) から出力されるビッチおよびロール姿勢角と,方位指示 器(HSI)用の方位ジャイロ(DG)から出力される方位 角を計測している。図3.10.1 に母機の航法装置のブロッ ク図を示す。VG,DGはともに荷物室後方の電子機器室 に搭載されている(図3.10.2)。ビッチおよびロール姿勢 角について,VGは3.1 に示したDGPS/INS によるものと 同じ物理量を計測することになる。一方,方位角につい ては,DGPS/INSが真方位角を出力するのに対し,DGは センターコンソールの制御器(図2.1.5, No.34)の設定に



図 3.10.1 母機航法装置ブロック図



図 3.10.2 母機搭載の垂直ジャイロ (VG) と方位ジャイロ (DG)

より,通常は磁方位センサ(フラックス・バルプ)にス レープされた状態で用いられるため,磁方位角を出力す る。フラックス・バルプはテールコーン内部に搭載され ている(図3.4.4)。なお,計測はコパイロット(左席)用 のものから行っている(図3.10.2に示したVG,DGは右 席用のもので,左席用のものは同じ電子機器室内の左舷 側に搭載されている)。

3.11 母機ピトー/静圧孔

母機装備のエアデータセンサ(ピトーおよび静圧孔) からの圧力配管を分岐し,エアデータ・トランスデュー サ(高度速度変換器)によって対気速度,気圧高度,お よび昇降率を計測する。全体の系統図を図3.11.1に,ピ トーおよび静圧孔の写真を図3.11.2に示す。なお,写真 のピトーはメインパイロット(右席)用であるが,計測 はコパイロット(左席)用のものから行っている。母機 エアデータセンサは胴体に直接取り付けられており,3.2 に示したエアデータブームとは位置誤差が異なる。母機 エアデータセンサの位置誤差は飛行規程に示される チャートを用いて較正することができる。なお,表2.2.1 に示した仕様精度は高度速度変換器単体のものである。

計器に表示される(即ちパイロットが認識している) 対気速度を知りたい場合には母機エアデータセンサの データを利用し,より精密に対気速度を計測する場合 (航空機を用いた風観測等)にはエアデータブーム(3.2) のデータを利用する。また,母機エアデータは,ノーズ ブームに超音波速度計(3.3)を装着した状態でも計測す ることができる。

3.12 母機ロータ回転計

母機装備のロータ回転計からの信号を計測している。 センサは,回転軸に鉄製のギヤ状のターゲットを取り付け,歯の部分の通過をコイルでピックアップし,これを 計数することによって回転速度を求めるものである。た だし,計測はロータ回転計のフライト・データ・レコー ダ(FDR)用の出力を利用しているが,この信号の分解



図 3.11.1 母機エアデータセンサの系統図



(1) ピトー(右席用)



図 3.13.1 ドップラレーダの取り付け



(2) 静圧孔(右舷側) 図 3.11.2 母機エアデータセンサの写真

能が2%となっているため,微小な変動を計測することは できない。正確なロータ回転速度は,3.5に示した計測用 センサのデータから得ることができる。

3.13 **ドップラレーダ**

対地速度の計測のため,機体テールコーン下部にドッ プラレーダを装備している(図3.13.1)。ドップラレーダ は実験用に新規に搭載されたものであるが,コクピット のセンターコンソールに制御器が設置されており(図 3.13.2),パイロットも3軸の対地速度を参照することが できる。

3.14 電波高度計

母機装備の電波高度計の出力を計測している。電波高 度計は右席のみに設置されており,計測も右席用から 行っている。電波高度計の送受信アンテナは機体底面の 左右に装備されている(図3.13.1)が,高度データの基準 点は左右アンテナの中心となる(表3.2)。



図 3.13.2 ドップラレーダのコントロールパネル

3. 15 ILS (GS, LOC), VOR, DME

母機装備の計器着陸システム(ILS)受信機の出力を計 測している。グライドスロープ(GS)およびローカライ ザ(LOC)は,基準進入経路に対してそれぞれ上下方向 および左右方向の偏位を表すもので,物理量変換の単位 としては姿勢指示器(ADI)の指示に用いられるドット (dot)を用いている。詳細については文献10に示されて いる。

超短波全方位無線標識(VOR),距離測定装置(DME) はそれぞれ自機位置から基準となる無線施設までの方位 と距離を示すもので,やはり母機装備の受信機の出力を 計測している。

ILS および VOR は左右操縦席用に設置されているが, 計測は左席用の No.2 NAV 受信機から行っている(図 3.10.1参照)。DMEは右席にのみ設置されており,計測も 右席用から行っている。

3.16 エンジンデータ

母機のエンジン制御装置(FADEC)で計測しているエ



図 3.18.1 計測員用のイベントスイッチと PTT スイッチ

ンジンデータを取り込んでいる。なお,MH2000A型機は エンジンおよびFADEC も三菱重工業(株)で開発され たものである。FADEC からのデータは信号変換器(図 2.3.4参照)を介してRS-422の信号として出力される。計 測項目は2基のエンジン各々のトルク,パワーターピン とガスジェネレータの回転数,およびターピン入り口温 度(T5)である。

3.17 ICS 音声

機内通話システム (ICS)を使って交信される音声を 5kHzのデジタルデータとして SSD に記録している。また,外視界記録システムのビデオレコーダを用いて録音 することも可能である。

3.18 各種スイッチ

母機装備品のスイッチの設定状態を記録することがで きる。スイッチの種類は,AFCSのエンゲージおよびゲイ ン設定(HI, NORMAL, LO), トリム・リリース,ロータ 回転速度の設定(NORMAL/LOW),エアコンのON/OFF である。

また,実験の記録用として,計測データ処理計算機の 操作員用にイベントスイッチが設置されている(図 3.18.1)ほか,実験用ディスプレイの下やサイクリックお よびコレクティブ・スティックのグリップ部に実験用ス イッチを装備しており(第5章参照),これらのスイッチ の設定状態を取り込むことができる。

3.19 レーザトラッカ用反射鏡

レーザトラッカは,飛行中の航空機の位置を地上から 計測するための装置で,航空機に向けてレーザ光を発射 し,その反射光を受信することによって距離と方位を求 めることができる。図3.19.1 に当研究所で開発された レーザトラッカの写真を示す。このレーザトラッカの仕



図 3.19.1 レーザトラッカ



図 3.19.2 レーザトラッカ用反射鏡

様精度は,直距離0.3 m,方位角および仰角20秒(距離 1 km あたりの測位誤差約0.1 m)で,数 km 以内の範囲 ではDGPSと同等以上の位置精度となっている。その他 詳細については文献11 に示されている。

このレーザトラッカを利用するための反射鏡が機体底 面に装着されている(図3.19.2)。この反射鏡は,任意の 方向から入射したレーザ光を同一経路に反射する逆反射 鏡になっている。

4.計測データの処理

4.1 計測データ処理計算機

計測データ処理計算機はWindows NTをOSとする4台 の工業用ボードPCを1つの19 inch ラック型筐体に納め たものである。図4.1.1に計測データ処理計算機の外観を 示す。計測データの記録媒体は容量860MBの半導体ディ スク(SSD)で, MuPAL-の飛行試験時間(最長で3時 間程度)内の全てのデータを保存することが可能である。 本体下部には無停電電源装置(UPS)が設置されており, 電源瞬断時にも記録を継続することができる。



図 4.1.1 計測データ処理計算機

4 台の PC は Master PC と Sub PC1 ~ 3 から構成され, 相互にイーサネット(100BASE-TX)で接続されている。 Master PC は操作卓におけるユーザ・インターフェイス (4.4)を提供するほか, GPS 時刻に同期した基準時刻発 生装置(TCG)を内蔵する。計測データはインターフェ イスの種類に応じて Sub PC1 ~ 3 に取り込まれ, 各デー タがインターフェイス・カードに到達した時点で割り込 み処理が発生し, 各Sub PCの内部時計に基づいた時刻情 報が付加された後,全ての計測データはSub PC3 に転送 され,SSD に記録される。記録フォーマットは1 word 16 bit (データによってはうち 12 bit のみを使用,あるいは 2 wordを使用するものがある)でインターフェイス毎に 分割されたパイナリ形式ファイルとなっている。表4.1.1 に各インターフェイス・カードの型式を,表4.1.2に各PC に搭載されているインターフェイス・カードと計測セン サの一覧を示す。

Windows NT はリアルタイムOS ではないため、各デー タに時刻情報を付加する際に遅延が発生する可能性があ る。開発初期の段階では、GPS時刻に対して数十msecの 時間遅れが生じる場合があったが、その後各タスクの処 理の最適化やOS の各種パラメータのチューニングなど を実施し、本稿執筆時においては、通常で数msec、最大 でも10 msec 程度の遅れに収まっている(文献12)。こ の誤差の主な要因は以下のとおりである。

- ・時刻情報付加の処理に最小限発生する時間遅れ 数 msec 以下。
- 各 Sub PC の内部時計と GPS 時刻との同期誤差
 各 Sub PC の内部時計は、イーサネットの時刻同期プロセスによって Master PC のTCG に同期される。このプロセスはデータ記録の開始時と終了時(データ

機器名		機器名	型 式
計	測データ処理計	算機	
	筐体		Lanner Electronics 製 IAC-C820A
	SSD		Targa 製 THPS-900-0
	I/F カード	CPU	Protech Systems 製 PC-620
		TCG	Datum 製 bc635PCI
		RS-232/422 (8ch)	MOXA 製 C218Turbo/PCI
		ARINC429 (8ch)	SBS Technologies 製 A429-PCI-8
		ARINC629	Ballard Technology 製 PCI629-1
		PULSE	Interface 製 PCI-6106
		IRIG-PCM 入力	Telametrix 製 PC19900
		IRIG-PCM 出力	Calculex 製 CTM-4102PCI
シ	グナル・コンデ	イショナ	
	本体		L-3 Communications 製
			RMU1000-001
	I/F カード	STRAIN (16ch)	MSC1000-034 × 2
		ANALOG (16ch)	MSC1000-029 × 4
		FRONT-END (16ch)	MSC1000-037 × 2
		SYNCHRO (2ch)	MSC1000-005
		DISCRETE (36ch)	MSC1000-007
		ROTOR AZIMUTH	MSC1000-011
		LVDT (2ch)	MSC1000-035
テ	レメータ送受信	機	NEC 製

表4.1.1 計測システムの構成機器の型式

表4.1.2 各PC のインターフェイス

Master PC	SLOT 1		
	SLOT 2	TCG	
	SLOT 3		
	COM1	UPS	
	COM2	シグナル・コン	/デ ィショナ
Sub PC1	SLOT 1	RS-232/422	FADEC1
			FADEC2
			DGPS/INS1
			DGPS/INS2
			DGPS/INS3
			予備
			予備
			予備
	SLOT 2		
	SLOT 3		
	COM1	アップリンク・テレメータ	
	COM2	下方視界ビデオカメラコントローラ	
Sub PC2	SLOT 1	ARINC629	ADC
	SLOT 2	PULSE	燃料流量計
	SLOT 3	ARINC429	VOR
			予備
			DME
			ドップラレーダ
			予備
	COM1	超音波速度計	
	COM2		
Sub PC3	SLOT 1	PCM 出力	ダウンリンク・
			テレメータ
	SLOT 2	PCM 入力	シグナル・
			コンディショナ
	SLOT 3		
	COM1		
	COM2		
	SCSI	SSD	

記録は1回の飛行試験を通して行うことも個々の試 験ケース毎に分割して行うことも可能である)にそ れぞれ行われ、この間の各Sub PCの内部時計のドリ フト誤差(1時間当たり最大100 msec 程度)を後処 理によって補正している。しかし、時刻同期プロセ ス自体に対するOSの応答の遅れ等により、最大で数 msec の誤差が生じる場合がある。

・不定期に生じる処理の遅れ 時刻情報付加の割り込み処理に対して OS の応答が 不定期に遅れることに起因する誤差で,発生頻度は
 数百回に1回(サンプリングレート50Hzなら5~10
 秒に1回)程度で,最大で10msec程度の遅れを生じる。

以上の誤差はほとんどの実験では問題になる大きさで はない。例えば高速で飛行中の機体の位置をメートル以 下の精度で計測したい場合等には影響を及ぼす可能性が あるが,DGPS/INSのデータについては,計測データ処 理計算機によって付加される時刻情報ではなく,GPSが 出力する観測時刻データを用いることにより,ほぼ時間 遅れのない時刻情報を得ることができるため,実用上の 問題にはならないと考えられる。

また,計測データ処理計算機は,画像表示計算機に対 してディスプレイ表示等に必要なデータをイーサネット 経由で送信する機能を有している。通常のデータは各 Sub PC から Sub PC 3 を経由して画像表示計算機に転送 されるため,この間に最大35 msec 程度の時間遅れが生 ずる。ただし,DGPS/INSのデータについては,Sub PC1 から画像表示計算機に直接転送することにより,時間遅 れは最大15 msec 程度となっている。これにより,「トン ネル・イン・ザ・スカイ」(図2.2.2)のようにパイロット に直接操縦のキューを与えるようなディスプレイについ ても問題なく表示することができる。

4.2 シグナル・コンディショナ

アナログ系統等からの信号は全てデジタル変換され, シグナル・コンディショナによってPCM 化されて計測 データ処理計算機に取り込まれる。シグナル・コンディ ショナは小型軽量のもので,計測条件等を設定するため のスイッチ類を持たず,必要な設定はすべて計測データ 処理計算機からソフトウェアで行うことができる。図 4.2.1 にシグナル・コンディショナの外観を示す。また表 4.2.1 に各スロット毎のインターフェイス・カード一覧, 表4.2.2 に各インターフェイス・カード毎の計測項目一覧 を示す。各インターフェイス・カードの型式については 表4.1.1 に記載されている。歪みゲージ(STRAIN)用の カードは高ゲインのアナログ電圧用としても利用可能で, 一部のアナログ信号の計測に用いられている。各イン ターフェイス・カードの予備チャンネル分については,

95mm 230 mm

図 4.2.1 シグナル・コンディショナ

計測データ処理ソフトウェアにおいても対応データが確 保されており,機器を追加した場合にも計測条件や較正 係数の設定等を行うだけで計測データを容易に取り込む ことができる。

4.3 テレメータ

V/UHF帯の電波を用いたテレメータにより,地上局と データの送受信を行うことができる。ダウンリンク・テ レメータは計測データ処理計算機で設定された変数をリ アルタイムで地上に送信することが可能で,機上の画像 表示計算機に表示される画面(例えば図2.2.2に示したよ うな画面)を地上の受信システムでも表示することが可 能となる。図4.3.1 にダウンリンク・テレメータ・システ ムのブロック図を示す。アップリンク・テレメータ・システ ムのブロック図を示す。アップリンク・テレメータは地 上局からのデータ送信に用いられ,通常はDGPSの補正 情報(3.1 参照)の送信に用いられているが,任意のデー タを送ることが可能である。

テレメータに使用される電波の仕様は以下の通りである。

・ダウンリンク・テレメータ

周波数 295.6MHz 出力 5W 送信速度 40KBPS (100word 25Hz)

・アップリンク・テレメータ

周波数 321.5MHz 出力 5W 送信速度 9.6KBPS

テレメータ送受信機は小型,軽量のものが採用されて いる(図2.3.4, 2.3.5参照)。テレメータ送受信用のアンテ ナは機体底面に設置されている(図4.3.2)。

表4.2.1 シグナル・コンディショナのインターフェイ ス・カード

SLOT	I/F カード
1	FRONT-END (STRAIN 1 用信号調整)
2	STRAIN 1 (歪みゲージ)
3	
4	FRONT-END(STRAIN 2 用信号調整)
5	STRAIN 2 (歪みゲージ)
6	
7	ANALOG 1
8	ANALOG 2
9	SYNCHRO
10	DISCRETE
11	ROTOR AZIMUTH(ロータ回転角 / 回転速度)
12	LVDT
13	ANALOG 3
14	FRONT-END (ANALOG3 用信号調整)
15	ANALOG 4
16	FRONT-END (ANALOG4 用信号調整)

表4.2.2 シグナル・コンディショナのインターフェイス

	1	ロータ 6分力(トルク)
	2	<u>ロータ</u> 6分力(スラスト)
	3	ロータ 6分力(曲げモーメントト1)
	4	
	5	$D - \phi_{0} \partial f (m f - x) + f - y$
	6	D = A = A = A = A = A = A = A = A = A =
6	7	ロ \mathcal{I} I
TR	/ 0	
Â	0	
	9	ノノジビノジ用 (No.3 ノレート)
	10	
	10	
	12	「マーノ」は「「「」」」」の「「」」」」
	13	
	14	採肥月(リイクリック傾)
	15	探胞刀(コレクティフ)
	16	
	1/	
	18	
	19	
ST	20	
RA	21	对地局度(電波局度)
Ī	22	ILS (LOC)
	23	ILS (GS)
	24	
		予備 (9ch)
	 32	予備 (9ch)
	 32 1	予備 (9ch) 振動(計器板×)
	 32 1 2	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板Y)
	 32 1 2 3	予備 (9ch) 振動 (計器板×) 振動 (計器板×) 振動 (計器板×) 振動 (計器板∠)
	 32 1 2 3 4	予備 (9ch) 振動 (計器板×) 振動 (計器板×) 振動 (計器板×) 振動 (操縦席×)
	 32 1 2 3 4 5	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×)
	 32 1 2 3 4 5 6 7	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×)
AN	 32 1 2 3 4 5 6 7	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(東縦席×) 振動(大和本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本本
ANALO	 32 1 2 3 4 5 6 7 8	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(シーク×) 振動(ラック×) 振動(シーク×) 振動(シーク×)
ANALOG	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(テック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 10	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(シック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(シック×) 振動(シック×) 振動(シック×) 振動(シック×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(モーン×) 振動(重心×) 振動(重心×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 11 12	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(支ック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 12 13	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ロシ×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(モーン×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(両物室×) 振動(荷物室×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(直心×) 振動(重心×) 振動(直心×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×)
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(連縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(面・2) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(ボッシー
ANALOG 1	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(直心×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(面や×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(で物室×) 振動(ボウータ回転速度 サーボ(テール)
ANALOG 1 AN	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(面や×) 振動((荷物室×)) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(イラの転速度 サーボ(テール) サーボ(メインFWD)
ANALOG 1 ANAL	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ブック×) 振動(ラック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ブック×) 振動(ロー>) ケーボ(テール) サーボ(メインFWD) サーボ(メインLAT)
ANALOG 1 ANALOG	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(意心×) 振動(重心×) 振動(面や>) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(イラッロ転速度 サーボ(テール) サーボ(メインFWD) サーボ(メインAFT)
ANALOG 1 ANALOG 2	 32 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21	予備 (9ch) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(計器板×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(操縦席×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(ラック×) 振動(重心×) 振動(重心×) 振動(面や×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(荷物室×) 振動(イラの転速度 サーボ(テール) サーボ(メインFWD) サーボ(メインAFT) 操舵量(サイクリック縦)

	23	操舵量(コレクティブ)
	24	操舵量(ペダル)
	25	超音波速度計
⊳	26	超音波速度計
NALC	27	招音波速度計
	28	招音波速度計
õ	20	招音波速度計
10	20	
	21	
	22	
	32	
Þ	1	之供 (20.5k)
AN	I	'J''HB (29CN)
Б	29	
G	30	は機ビトー (升降率)
6/4	31	母機ビトー (丸圧局度)
(0)	32	母機ヒトー(刃気速度)
NYS	1	DG (万位角)
ō	2	予備
	1	AFCS ENG
	2	AFCS GAIN (HI)
	3	AFCS GAIN (NORMAL)
	4	AFCS GAIN (LOW)
	5	AIR/CON
	6	TRIM REL
	7	ROTOR RPM 1
	8	ROTOR RPM 2
	9	実験用ディスプレイ 1
	10	実験用ディスプレイ 2
	11	実験用ディスプレイ 3
ISC	12	実験用ディスプレイ 4
RE	13	実験用ディスプレイ 5
Ξ	14	サイクリック PUSH (OFF)
	15	サイクリック PUSH (ON)
	16	サイクリック 4WAY (L)
	17	サイクリック 4WAY (U)
	18	サイクリック 4WAY (R)
	19	サイクリック 4WAY (D)
	20	
	21	コレクティブ トグル (D)
	22	
	22	
	20 I	予借 (14ch)
	36	1. Mar (1.4011)
ת	50	ロータ回転速度センサ(ティルロータ)
oto		ロ ノ田和
Γ	4	u = 2 四和用 $U = 2 $ (入1 $2 $ $U = 2 $)
Ð	0	
-	2	



図4.3.1 ダウンリンク・テレメータ・システムの プロック図



図 4.3.2 テレメータ用アンテナ

4.4 計測データ処理ソフトウェア

計測データ処理ソフトウェアは,計測システム操作卓 (図2.3.3参照)において以下のようなユーザ・インター フェイスを提供する。

- ・計測システム全体の作動状態の設定およびモニタ
- ・計測データの数値表示,時歴表示,クロスプロット表 示
- ・ダウンリンク・テレメータおよび画像表示計算機への 送信データの設定



図4.4.1 計測データ処理ソフトウェアの画面の例

図4.4.1に計測データ処理ソフトウェアの画面の例を示す。

4.5 データ再生ソフトウェア

計測データは機上ではバイナリ形式ファイルとして保存される。飛行試験の終了後,計測データの記録された SSDを地上の汎用PCにSCSIインターフェイスのハード ディスクとして接続し,データ再生ソフトウェアで必要 なデータを物理量に変換する。このデータ再生ソフト ウェアはWindows上で稼動し,計測項目と時刻区間を指 定することによって,任意の記録データを時刻情報付き のテキストデータに変換する機能を有している。ICS音 声デーダ(3.17)についてはWAV形式(Windowsで用いら れる音声ファイルの標準形式)のファイルに変換される。

5. **画像表示システム**

画像表示システムは統合型ディスプレイ等に関する研究を行うためのもので,研究者がプログラムした任意の 画像情報をコクピットの計器板に表示することができる。 図5.1に実験用ディスプレイの写真を示す。表示部は対角 8.4 inch,解像度800 × 600 dotの液晶ディスプレイであ る。画像表示計算機(図2.3.4参照)は高性能のグラフィッ ク・ワークステーション(Silicon Graphics 社製 Octane/ MXE)を耐環境性を向上しラック搭載型としたもので, 800 × 600 dotの画面を同時に2 画面生成することができ る。画像表示システム操作卓(図2.3.3参照)のディスプ レイには,実験用ディスプレイに表示される画面ともう 一方の画面(操作員が表示内容を設定するための画面な ど)を切り換えて表示することができる(図6.2参照)。

計測データ処理計算機の設定により,任意の計測デー タを画像表示計算機に転送することができる。「トンネ ル・イン・ザ・スカイ」(図2.2.2)のようにパイロットに 直接操縦のキューを与えるような表示を行う場合には,



図 5.1 実験用ディスプレイ

特に機体の位置や姿勢角等のデータの時間遅れが問題となるため,データ転送の際の時間遅れが最小となるように配慮されている(4.1参照)。

実験用ディスプレイにはスイッチが5個付いており (図5.1), これらの設定状態(on/off)を計測データ処理 計算機を経由して取り込むことによって,表示内容の切 り替え等の機能をプログラムすることができる。左側操 縦席のサイクリックおよびコレクティブ・スティックの グリップ部にもそれぞれプッシュ式と4WAY式,および トグル式のスイッチが装備されており(図5.2), 同様に 利用可能である。

また,画像表示計算機で生成した音声をICS に入力す ることが可能で,人工音声によるパイロットへの情報伝 達等に用いることができる。

なお、実験用ディスプレイの表示内容は研究者が実験 目的に応じてプログラムするもので、航法装置として認 可されたものではない。飛行中の安全性の確保のため、 実験用ディスプレイの参照は左席パイロット(実験パイ ロット)に限定されている(2.6参照)。

6.外視界記録システム

外視界記録システムは,実験の記録としてのビデオ撮 影のほか,画像認識技術を応用した新しい航法システム の研究(文献4)等にも利用可能なように設計されてい る。コクビット天井部に前方視界撮影用ビデオカメラ, 機体底部,荷物室床面のカメラ用開口部(8.4)に下方視 界撮影用ビデオカメラがそれぞれ設置されている(図 6.1)。前方視界カメラは3CCDの高画質かつ小型のもの で,取り付け角度は手動により調整可能で,下向きに設 定することにより計器板を撮影することもできる。焦点 および露出の調整も手動で,画角(ズーム)は固定式と なる(レンズ交換により変更可能)、下方視界カメラは荷 物室に設置されているため飛行中にアクセスすることは



(1) サイクリック・グリップ



(2) コレクティブ・グリップ 図5.2 左席操縦装置のグリップ部に追加された実験用ス イッチ

できない。首振り角度および画角がキャビン内からリ モートコントロール可能で,可動範囲は鉛直下向きから 前後±17度,左右±23度,ズーム比3倍(水平画角15 ~45度)となっている。設定された首振り角度と画角は 計測データとして取り込むことができる。また焦点,露 出の調整は自動となっている。

前方および下方視界カメラで撮影した映像は、ビデオ レコーダで記録できるほか、画像表示システムを経由し て実験用ディスプレイに表示することができる。ビデオ レコーダは MiniDV 規格のテープを使用するもので、対 角5.5 inch の液晶ディスプレイを搭載している。図6.2 に 外視界記録システムと画像表示システムのプロック図を 示す。画像編集機により、外視界カメラの映像と画像表 示計算機の出力画像を合成することも可能である。

また,機内には集音マイクが設置されており,ICSの 音声とともにビデオレコーダで録音することができる。 各機器の型式を表 6.1 にまとめる。





(1)前方視界カメラ





図 6.1 外視界撮影用ビデオカメラ

図 6.2 画像表示システムと外視界記録システムのブロック図

7.可変安定システム

可変安定システムは,飛行中に機体の安定性を変化さ せることによって,個々のタスクに対するパイロットの ワークロードへの影響等について研究を行うためのシス テムである。この機能は,母機搭載の自動飛行制御装置 (AFCS)のソフトウェアを変更することによって実現さ れている。図7.1にAFCSのブロック図を示す。このAFCS は三菱重工業(株)で社内開発されたもので,安定増大 (SAS)と姿勢保持の機能を有するものである。図中に示 される姿勢角とその微分値,積分値に対するフィード パックゲインを以下の2通りの方法によって変更するこ

機器名	型式
画像表示計算機	CRI 製 R875I
実験用ディスプレイ	横河電機製
アップコンバータ	デジタルアーツ製 DSC05u
スキャンコンバータ	デジタルアーツ製 DSC06j
ビデオコンバータ	ブラックボックスジャパン製 AC095A
前方視界カメラ	SONY 製 XC-003
下方視界カメラ	SONY 製 EVI-G20
眏像編集機	SONY 製 XV-D1000
ビデオレコーダ	SONY 製 GV-D900
機内マイク	SONY 製 ECM-55B

表 6.1 画像表示システムと外視界記録システムの構成機器の型式



図 7.1 可変安定システムのブロック図

とができる。

- (1)センターコンソールに設置された制御器(図7.2)を 用いてあらかじめ設定された3種類のゲイン(HI, NORMAL, LO)から選択する方法。ゲインの値は, NORMALが母機のAFCSと同等,LOが各ゲインとも 母機の0.5倍,HIが約2.0倍(ロール軸については発振 防止のため1.4倍)となっている。
- (2)AFCSコンピュータに直接端末(汎用PC)を接続し, 各ゲインを任意の値に書き変える方法

いずれの場合にも飛行中の任意のタイミングでゲイン を変更することが可能である。ただし,(1)の方法を用 いる場合には耐空性の範囲内で運用することが可能であ るが,(2)の方法を用いる場合には航空法第11条の但し 書きによる飛行試験に限定される。

固定翼実験機の MuPAL- は、フル・オーソリティー のフライ・バイ・ワイヤ(FBW)式操縦装置によって任 意の安定性、応答性をプログラムすることが可能となっ ている(文献1)が、MuPAL- の操縦系統は母機の機械 式リンケージのままであり(FBW 化されていない)、 AFCS アクチュエータのオーソリティーは約5%であるた め、限られた範囲での可変安定機能となっている。



図7.2 可変安定システムのコントロールパネル

8. 機体改修等

8.1 重量重心

機体の重心位置や装備品の搭載位置等はSTA,WL,BL を用いた座標系で表される(図8.1.1)。STA軸が機体の 床面に平行で後ろ向きが正,WL軸が床面に鉛直で上向 きが正,BL軸が横方向で左舷側が正と定義され,基準点



図 8.1.1 機体の基準軸(ステーション・ダイアグラム)

		E	重	心
		(kg)	STA	BL
実験用	ヨシステム全体	342.7	3574	40
ノース	(ブーム全体(エアデータブーム形態)	21.0	66	0
	エアデータブーム	2.3	- 1170	0
ノース	(プーム全体(超音波速度計形態)	28.0	91	0
	超音波速度計センサプローブ	1.5	- 1950	0
	延長プーム	2.6	- 1280	0
ラック	7全体	204.9	4014	- 7
	ラック	35.7	4044	0
	計測データ処理計算機	32.1	4010	- 569
	UPS	4.3	3945	
	FADEC 信号変換器	10.2	4010	
	ビデオシステム	20.7	3921	
	DGPS/INS	9.6	3963	- 175
	ADC	3.2	4260	235
	シグナル・コンディショナ	3.0	4263	221
	テレメータ	0.8	3810	
	画像表示計算機	44.8	3945	622
	超音波速度計データ処理器	11.3	3920	631
計測シ	マステム操作卓	17.0	2657	543
画像表	テシステム操作卓	15.5	2675	- 557
機器損	除作員用回転式座席	26.0	3224	12
機器損	作員用テーブル	6.2	2648	- 2
実験用	ディスプレイ	4.0	1545	145
前方視	現カメラ (含マウント)	3.5	2556	150
下方視	現カメラ(含マウント)	9.5	6200	275
商用電	[源インバータ (2台,含マウント)	14.4	5685	266

表8.1.1 主な実験用機器の重量と重心位置





図 8.1.3 全機重量重心の例 (表 8.1.2 参照)

量重心の例を示す。

8.2 図8.1.2 荷物室に搭載されたバラスト,インバータと重

量重心計測用水平基準器

はメインロータハブの中心が STA 5000, WL 3700, BL 0 (単位mm)となるように定められている。なお,メイン ロータシャフトは機体床面に対して5度前傾している。

表8.1.1に実験用システムの主な機器の重量および重心 位置を示す。実験形態では,機首にノーズブームを装着 しているほか,キャピン前方に計測システムおよび画像 表示システムの操作卓等を配置しているため,全機の重 心位置が前方寄りとなっている。重心位置調整のため, 図8.1.2に示すように荷物室の床面にパラスト(鉛の板) を搭載している。パラストの重量はエアデータブーム装 着時に55 kg,超音波速度計装着時にはさらに58 kg(計 113 kg)となっている。表8.1.2および図8.1.3に全機の重



図8.2.1 に電源系統図を示す。実験用システムの電源と して28V/DC,100V/AC,および115V,26V/400Hzを供給 することができる。特に計測データ処理計算機や画像表 示計算機を初めとして商用電源(100V/AC)を利用する 機器が多いため,容量850VAのインバータ2台を荷物室 内に搭載している(図8.1.2)。センターコンソールには実 験用システムの電源全体の制御器が設置されており(図 8.2.2)非常時にはパイロットが全システムを遮断するこ とができる。左操縦席後方の電源パネルには各電源系統 毎のサーキット・ブレーカと電流計が設置されている (図8.2.3)。電源取り出し口(図8.2.4)はキャビン前方(コ クビットのセンターコンソール下),キャビン後方左右, および荷物室内の計4カ所に設置されている。

表8.2.1 に実験用システムの各機器の電気負荷を示す。

表8.1.2 全機重量重心の例

				1 01 1
		ケース 1	ケース 2	ケース 3
形態		実験形態 (エアデータブーム)	実験形態 (超音波速度計)	母機形態
空虚状態		3290 / 5057	3307 / 5043	3048 / 5180
バラスト		55 / 6512	55 / 6512 58 / 6105	80 / 6525
搭乗員	コクピット キャビン	2 × 75 / 2172 3 × 75 / 3261	2 × 75 / 2172 3 × 75 / 3261	2 × 75 / 2172 8 × 75 / 3748
燃料		460 / 5095	700 / 5095	634 / 5095
離陸時		4180 / 4880	4495 / 4898	4500 / 4900

(重量 [kg] / 重心 STA [mm])



図 8.2.1 電源系統図



図 8.2.2 実験用電源のコントロールパネル



図8.2.4 電源取り出し口(キャビン後方)



図 8.2.3 電源パネル

8.3 ICS

コクピットの2席に加えてキャビン内の3席にもICSを 装備し,計測システム操作席からはVHF無線により外部 と直接交信することも可能となっている。図8.3.1にキャ ビン天井部に設置されたICS制御器の写真を示す。図 3.18.1には外部交信用のPTT スイッチの写真が示されて いる。

画像表示計算機の音声出力を ICS に入力することも可

表8.2.1 実験用機器の電気負荷

	DC 28V	AC 100V	
		No. 1	No. 2
DGPS/INS	39.2		
ADC	19.6		
ピトーヒータ	220.0		
TAT センサヒータ			250
高度速度変換器(DC15V)	(1.9)		
超音波速度計		30	
光電スイッチ(DC12V, 2 個)	(0.8)		
レーザ式変位センサ(DC12V, 8 個)	(11.5)		
FADEC 信号変換器(2 個)		104	
燃料流量信号変換器 (DC24V)	(4.8)		
振動センサ (DC12V, 5 個)	(0.9)		
DC/DC コンバータ (12V)	84.0		
DC/DC コンバータ (24V)	18.2		
DC/DC コンバータ (15V)	18.2		
計測データ処理計算機		462	
操作卓ディスプレイ		92	
UPS		21	
HUB		25	
テレメータ送信機	42.0		
テレメータ受信機	5.6		
テレメータビット同期ユニット	2.8		
画像表示計算機			338
実験用ディスプレイ	27.2		
操作卓ディスプレイ		28	
前方視界カメラ		14	
下方視界カメラ		6	
下方視界カメラボックスヒータ	28.0		
アップコンバータ			25
スキャンコンバータ			50
デジタルスキャンコンバータ			25
分配器		4	
────────────────────────────────────		31	
ビデオレコーダ		20	
合計	505	837	688
余裕	560	13	162

能である(第5章参照)。

ICS の音声は計測データとして SSD に記録される (3.17) ほか,外視界記録システムのビデオレコーダで録 音することができる(第6章)。

また,母機形態においては搭乗者全員(最大10名)分のICSを装備することが可能となっている。

8.4 荷物室床面開口部

荷物室の床面に開口部が設けられている。図8.4.1 に開 口部の図面を示す。通常の実験形態ではこの部分に下方 視界撮影用のビデオカメラが設置されているが,当研究 所の保有するレーザ式高度計(Optech社製 Model 501SB Rangefinder)を設置することも可能なように設計されて いる。
 キャビン前方

 ①

図 8.3.1 キャビン用の ICS コントロールパネル









断面 B-B

図 8.4.1 荷物室床面の開口部

9.計測データの較正

MuPAL- 用に整備された較正装置の一覧を表9.1に示 す。以下に各計測項目(アナログ系統のみ)の較正方法 について述べる。

9.1 エアデータブーム/母機ピトー

母機ピトー(高度速度変換器)の較正はピトー静圧較 正器を用いて行う。エアデータブーム(ADC)はデジタ ル出力であるが,超音波速度計や母機形態への変更のた めにエアデータブームの取り外し,取り付けを行った場 合には圧力配管の漏れ等についてピトー静圧較正器を用 いて検査を行う。,ペーンの角度については専用の 治具を用いて較正する。

9.2 操舵量 / 操舵力

コレクティブ・スティックとサイクリック・スティッ クの各グリップ部分,およびペダルに治具を取り付け, 傾斜計を用いて操舵量の較正を行う。図9.2.1 はサイク リック・スティック(この写真は実機ではなく飛行シ ミュレータのもの)に治具を取り付け,縦(ピッチ)の 操舵量を傾斜計を用いて較正している様子である。

操舵力の較正は,同じ治具の定められた点(図9.2.1)に フォース・ゲージを接続して行う。

9.3 ブレード角度

地上でコレクティブ・スティックおよびサイクリッ ク・スティックの縦横の操舵を入力した場合の各プレー ドのピッチ角変化を計測して較正式を算出することによ り,3.4で述べたスウォッシュプレートの3つのサーボの 各変位量の計測データから飛行中のコレクティブピッチ と縦横のサイクリックピッチを求めることができる。プ レードのピッチ角の計測は,プレードの付け根部分に治 具を介して傾斜計を装着することによって行う(図 9.3.1)。

またこの治具により,フラッピング角とリードラグ角 の較正を行うこともできる。リードラグ角は水平面内の 変位なので,傾斜計ではなくノギスによる変位計測に よって較正を行う。

9.4 ロータ6分力

機体を地面にタイダウンした状態で周りに架台を組み, ロータヘッド部に治具を取り付けて,おもりによって力 とモーメントの荷重をかける。なお,この方法によって は,飛行中の数分の1の荷重しかかけられないため,後 は線形補外によって較正カープを作成している。

		型式	計測項目	仕様精度
I	アデータブーム較正装置			
	ピトー静圧較正器	Druck 社製	速度	± 1 kt (50 kt)
		ADTS500		± 0.5 kt (100 kt)
			高度	± 15 ft
	ベーン角度較正器	Space Age Control 社製	迎角	± 0.25 deg
		100535	横滑り角	± 0.25 deg
操會	它量/操舵力較正装置		操舵量	± 0.1 deg
			操舵力	± 0.3 lb
プレ	ノード角度較正装置		ピッチ角	± 0.1 deg
			フラッピング角	± 0.1 deg
			リードラグ角	± 0.1 deg
重	重心計測装置	Intercomp 社製	重量	± 15 lb (6.8 kg)
(□	ードセル)	JW-3-15	重心	± 5 mm

表 9 1	較正機器の什様
18 0.1	



図 9.2.1 操舵量 / 操舵力較正装置



図 9.3.1 ブレード角度較正装置

9.5 燃料流量 / 消費量

燃料流量の較正はセンサ単体で専用の較正装置を用い て行う。

燃料消費量については飛行の前後に全機重量を計測す ることによって較正できる。全機の重量および重心は, 機体の3点をジャッキで支持し,ロードセルを用いて計 測する。図9.5.1に重量重心計測の様子を示す。重量重心 計測の際には,床面の水平を正確に出すため,荷物室内 に水平基準器を設置する(図8.1.2参照)。



図 9.5.1 重量重心計測の様子



図 9.7.1 地上作業用ジャンクション・ボックス

9.6 母機航法装置

電波高度計は0ftと50ftの基準信号を出力する機能を 有しており,これによって較正を行う。また,レーザ式 高度計(8.4参照)を用いて任意の高度で較正することも 可能である。

ILS, VOR は専用の較正器 (チェッカー)を用いて較正 を行う。

9.7 ジャンクション・ボックス

通常の状態では各センサの出力はシグナル・コンディ ショナまたは計測データ処理計算機に直接接続されてい るため,計測システムに不具合が発生した場合にその箇 所の特定や状況の把握を行うことが困難である。地上で

半径 5m のハーフドーム型スクリーン



6 自由度電動モーション 図 10.1 ヘリコプタ用飛行シミュレータ

のトラブルシュートの際には,センサとシグナル・コン ディショナを接続するコネクタの間にジャンクション・ ボックスを挿入することによって,センサからの信号を チャンネル毎に直接モニタすることが可能となる。図 9.7.1 にジャンクション・ボックスの写真を示す。なお, ジャンクション・ボックスの接続は地上での作業中に限 定される。

10.飛行シミュレータ

MuPAL- の導入にあわせて,当研究所の保有するヘリ コプタ用飛行シミュレータ(図10.1)の操縦装置と計器 板をMuPAL- と同等のものに改修した。コクピット本体 は既存のもののままで,小型レシプロ・エンジン機の実 機部品を利用したものである。模擬視界発生装置は,半 径5m,視野角上方30度,下方50度,左右各90度のハー フドーム型のスクリーンを有するものである。

図10.2 にシミュレータの計器板の写真を示す。右席に は主要な飛行計器とエンジン計器がコンピュータ画像に よって再現されており,左席には実験用ディスプレイが 設置されている。実験用ディスプレイには実機と同等の グラフィック・ワークステーション(Silicon Graphics 社 製OCTANE/MXE)が接続されており,表示プログラム の互換性が確保されている。図10.3 にシミュレータの操 縦装置とセンターコンソールの写真を示す。グリップ部 は実機と同等の形状および機能を有するものである。セ ンターコンソールではエンジン,航法系,可変安定シス テムの各コントロールパネルが模擬されている。

運動計算に用いるシミュレーション・モデルは,当研 究所で開発された非線形モデルで,メインロータの誘導 速度を運動量理論で求め,各プレードに働く空気力を翼 素理論の数値積分によって計算している。プレードおよ び胴体等の空力特性については,三菱重工業(株)から 風洞試験データの提供を受けた。



図10.2 飛行シミュレータの計器板



(1) サイクリック・スティック



(2) コレクティブ・スティック



(3) センターコンソール図 10.3 飛行シミュレータの操縦装置

本シミュレータはパイロットの訓練を目的として設計 されたものではなく、コクピット全体の機能、形状が実 機の MH2000A 型機を模擬するものではないが、飛行試 験に先立って実験用ディスプレイの表示プログラムの開 発、評価や試験手順の確認等の目的に利用することが可 能であり、飛行試験と飛行シミュレーションを併せた統 合的な実験環境を提供するものである。

11. おわりに

実験用ヘリコプタMuPAL-の実験用システムの詳細に ついてまとめた。MuPAL-は、ヘリコプタの航法・誘導・ 制御技術、特にパイロット・インターフェイス等の研究 分野における飛行試験を効率的に行い、また航空機搭載 用機器の運用評価等のさまざまな目的に幅広く対応可能 なように設計されている。今後特にヘリコプタの飛行安 全や環境適合性(騒音)の分野での技術向上に寄与する ことが期待される。

謝辞 辞

MuPAL- は契約から納入まで1年という短期間のうち に母機の調達,実験用システムの設計,製作および搭載 工事を行うというハードスケジュールで完成された。こ れはひとえに開発を担当していただいた三菱重工業(株) の関係各位の御尽力によるものである。また,同社には 本資料の作成にあたり,多くの図面や資料を提供してい ただいた。ここに感謝の意を表させていただきます。

付 記

(1)開発経緯

実験用ヘリコプタ MuPAL-の整備は 1998 年度の第3 次補正予算によって総事業費約10億円をかけて行われ た。この費用には母機および装備品,予備品,地上支援 機材等の調達,実験用システムの設計,製作,搭載工事, 飛行シミュレータの改修,地上データ再生システムの構 築,および当研究所の操縦士の訓練等が含まれている。 契約先は1999年3月末に入札によって三菱重工業(株) に決定した。母機となるヘリコプタは三菱式 MH2000型 機の通算4号機(量産型 MH2000A 型機としては2号機) で,1999年11月に耐空証明を取得,実験用システム搭載 の修改工事を経て2000年3月末に完成,納入された。そ の後当研究所において機能試験および各センサの精度検 証試験(文献6,7),メガフロート空港評価飛行実験(文 献10), 騒音計測実験(文献13),「トンネル・イン・ザ・ スカイ」評価実験(文献2)などが実施されたが,同年11 月27日に発生した MH2000 原型機の事故以来 MuPAL-も飛行を停止しており,2002年10月から運用を再開する 予定となっている。

この間に実験用システムの機能改善および向上のため にいくつかの改修が行われている。本資料に記された実 験用システムの機能のうち,以下のものについては納入 時にはなく,2000年11月以降の改修で新規に追加された ものである。

・3.10 に示した母機 VG, DG データの取り込み

- ・3.11 に示した母機ピトーの計測項目のうちの昇降率
- ・4.3 に示したダウンリンク・テレメータ・システムのう ちの地上受信データ処理計算機

以下の改修も行われたが,これらの内容については本 資料には反映されていない。

- ・電源容量の余裕増大のため,荷物室に搭載された商用 電源のインバータ(図8.1.2)が2台から3台に変更さ れた。これに伴い,電源制御器(図8.2.2)および電源 パネル(図8.2.3)も改修されている。
- ・母機の許容重心位置範囲(図8.1.3)が前方に0.5 inch 拡 大され,これに伴いバラスト(図8.1.2)の重量も変更 されている。
- ・計測システムおよび画像表示システムの各操作卓(図
 2.3.3)が振動軽減のため設計変更された。
- ・ラックの中央部分に搭載されるビデオ関連機器(図 2.3.4)も民生品のため,中央上段のビデオレコーダ等 と同様にショック・マウントを介してラックに取り付 けるように変更された。
- ・キャビンの窓を左右ともスライド式の開閉可能なもの
 に交換した。これにより、光学センサを用いた大気観
 測や写真撮影が可能となる。
- (2)開発担当

当研究所内におけるMuPAL-開発の主な担当を記す。 下記以外にも当研究所内外の多くの方の御協力をいただいた。

奥野善則	 全体とりまとめ
又吉直樹	 実験用システム全般
照井裕之	 母機関係とりまとめ
若色薫	 飛行シミュレータの改修
穂積弘毅	 計測システム ,特にエアデータブー
	ム , 計測データ処理ソフトウェア等
井之口浜木	 計測システム , 特に超音波速度計
	テレメータ等
舩引浩平	 画像表示システム

文 献

- 1) MuPAL- 開発チーム,「多目的実証実験機 MuPAL-の開発」,航空宇宙技術研究所資料 TM-747,2000 年1月。
- 2) 舩引浩平, 飯島朋子, 村岡浩治, 若色薫, 「トンネル 型表示方式のヘリコプタへの適用」, 第 39 回飛行機 シンポジウム, 岐阜, 2001年10月。
- 3) Brown, M. A., "An Integrated Three-Dimensional Terrain and Primary Flight Display for Terrain Awareness and Alerting," Technical Report of National Aerospace Laboratory, TR-1391T, November 1999.
- 4)本間幸造,山本浩通,熊坂和広,及川徹也,「接地帯 標識実撮像画像認識」,第39回飛行機シンポジウム, 岐阜,2001年10月。
- 5) 張替正敏, 辻井利昭, 村田正秋, 小野孝次, 稲垣敏 治, 冨田博史, 増田靖宏, 「搬送波位相 DGPS/INS 複 合航法による精密進入着陸航法システムの開発」 航 空宇宙技術研究所報告 TR-1399, 2000 年1月。
- 3) 又吉直樹,井之口浜木,奥野善則,「航技研実験用へ リコプタ搭載 DGPS の位置精度と受信安定性につい て」,第39回飛行機シンポジウム,岐阜,2001年10 月。
- 7) 又吉直樹,「実験用ヘリコプタ MuPAL- 搭載エア データセンサの位置誤差評価飛行実験」,第40回飛 行機シンポジウム,横浜,2002年10月。
- 8) 矢澤健司,「環境飛行試験用超音波風速計の開発」,
 第 39 回飛行機シンポジウム,岐阜,2001 年 10 月。
- 9) 又吉直樹,宮沢与和,石川和敏,「実験用航空機ドル ニエによる地形性乱気流の計測」,航空宇宙技術研究 所報告 TR-1445,2002 年 8 月。
- 10) 奥野善則,又吉直樹,穂積弘毅,舩引浩平,石井寛 ー,「実験用ヘリコプタ MuPAL- によるメガフロー ト空港評価飛行実験」,航空宇宙技術研究所報告 TR-1429,2001 年7月。
- 11) Inokuchi, H. and Fujiwara, T., "Positioning Accuracy of the Laser Tracking System for Flight Testing," 第 39 回飛行機シンポジウム国際セッション,岐阜, 2001年10月。
- 12) 又吉直樹,一見和彦,「汎用 PC を用いた航空機 (MuPAL-)搭載用計測システムの設計開発」,日本 航空宇宙学会第 32 期年会講演会,2001 年 4 月。
- 13) Ishii, H., Okuno, Y., and Funabiki, K., "Flight Experiments for Aircraft Noise Measurement Using Tunnel-In-the-Sky Display," AIAA Paper 2002-4880, August 2002.

独立行政法人航空宇宙技術研究所資料764号

平成 14 年 6 月発行

独立行政法人 航空宇宙技術研究所 発行所 東京都調布市深大寺東町 7・44・1 **電話(**0422**)**40 · 3935 **〒** 182 · 8522 印刷所 株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段北 1.7.8

C 2002 独立行政法人 航空宇宙技術研究所

本書(誌)の一部または全部を著作権法の定める範囲を超え、無断で 複写、複製、転載、テーブ化およびファイル化することを禁じます。 本書(誌)からの複写、転載等を希望される場合は、情報技術課資料 係にご連絡下さい。 本書(誌)中、本文については再生紙を使用しております。

14 14 百 主 行 石 孚 戶 資 米

f



Printed in Japan